

2009年4月13日

2009年度県政スタート

報告書

(2009年4月2日～4日調査)

調査の設計	1
結果の概要	2



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

調査の目的

昨年後半から急速に深刻化した世界不況の荒波は、各国の実体経済を揺るがし、日本では輸出依存・内需伸び悩みという体質の弱さを痛撃されたばかりでなく、「自立」を問われてきた自治体、地域経済を財政、雇用、個人消費などの面で苦境に追い込んでいる。

「長野県経済は大幅に悪化している〔4月1日の日銀松本支店の「長野県の金融経済動向」〕状況下で、2009年度の村井県政がスタートした。新年度の一般会計当初予算は税収、地方交付税の落ち込みを借金（県債）で補てんし、ほぼ前年度並みの総額約8300億円を投入し「県民の暮らしを守る予算」（村井知事）で臨んだ。

村井県政は1期の任期をあと1年4カ月を残すのみとなり、成果の内実が検証されるとともに、継続する課題の取りくみが問われる段階に至った。国会の“ねじれ状態”が続く国政レベルでは、経済対策に迅速さが求められる事態に直面しつつ、いよいよ解散・総選挙の試練が迫る。本格的な政権交代の可否を問う政局動向は、村井県政の行方にも微妙な影響を及ぼす。

村井県政1期の中で、県民が長野県の進む方向や知事のリーダーシップをどのように評価し、今後どのように期待感を抱いているのか、2009年度スタートの節目に探る。

調査の設計

調査対象	県内に住む20歳以上の男女1000人
抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20～70代以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
調査方法	個別電話聞き取り・N T T電話帳から一定のルールで無作為抽出した世帯にコールして、設定した年代・性の人を選び、目標の1000人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
調査地点	19市11町6村
調査時期	2009年4月2日～4日
有効回答	1000人（男性 471人 女性529人）

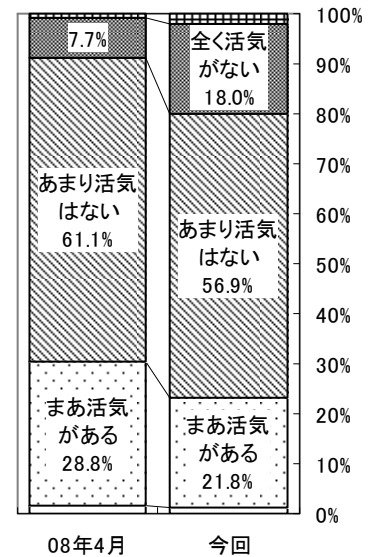
<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

II 結果の概要 村井県政の評価

◆ 県経済・暮らし向き「活気ある」ダウン

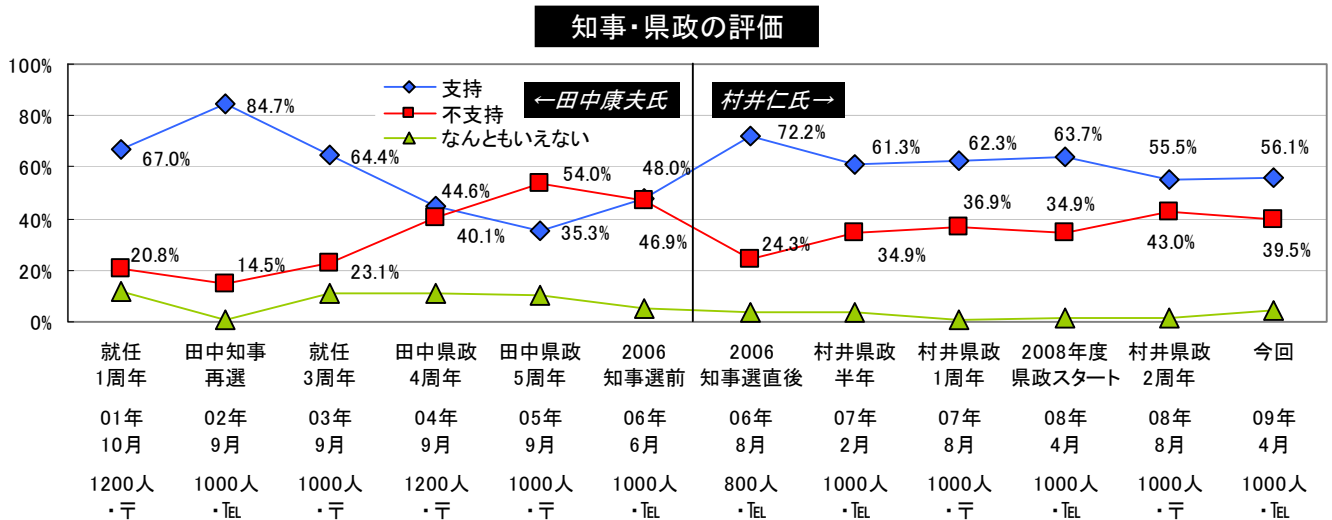
長野県の経済や暮らし向きの現状について「活気がある」が総体で 23%と、昨年 4月に比べて 7ポイント下降。「活気がない」が総体で 4人に3人を占める。このうち「全く活気がない」は 10ポイント余増えた。

「活気がある」は女性と 20、30代の若年層、70歳以上（以下「70代」と略記）で比較的高めになっている。



村井知事・県政の評価

◆ 支持が横ばい56.1% 不支持やや減り39.5%



＜注＞田中県政当時は「なんともいえない」を郵送調査(〒)のみ選択肢として明示。

村井知事・県政を「支持する」が総体で 56.1%と、直近調査の 2008年 8月の「村井県政 2周年」調査(1000人・郵送)より 0.6ポイント上昇のほぼ横ばい。支持の内訳は、強めの「支持する」が 15.9%、「どちらかといえば支持する」は 40.2%。めだつた変動はみられない。

2006年 8月の知事選初当選から通算 6回の平均支持率は 61.9%になる。

「支持しない」は総体で 39.5%と 3.5ポイントの減少。内訳は、強めの不支持が 10.8%、「どちらかといえば支持しない」は 28.7%。

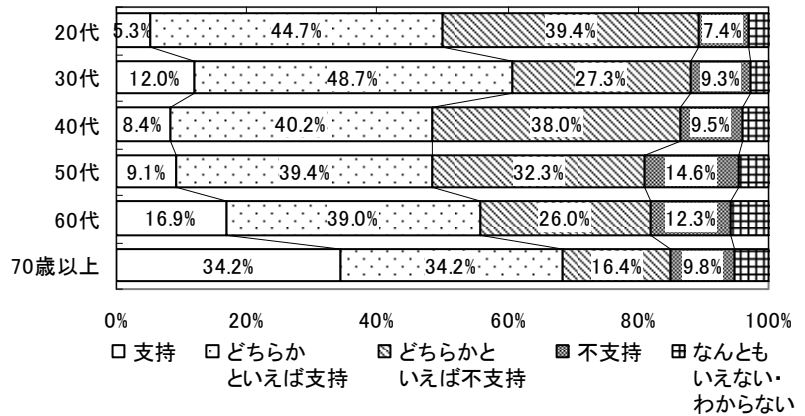
	01年10月	02年9月	03年9月	04年9月	05年9月	06年6月	06年8月	07年2月	07年8月	08年4月	08年8月	今回
支持する	36.6%	50.5%	29.7%	15.1%	11.6%	14.1%	35.9%	20.6%	19.6%	22.4%	17.8%	15.9%
どちらかといえば支持する	30.4%	34.2%	34.7%	29.5%	23.7%	33.9%	36.3%	40.7%	42.7%	41.3%	37.7%	40.2%
どちらかといえば支持しない	10.1%	8.0%	11.4%	17.5%	18.0%	25.9%	14.0%	24.6%	24.9%	24.6%	30.7%	28.7%
支持しない	10.7%	6.5%	11.7%	22.6%	36.0%	21.0%	10.3%	10.3%	12.0%	10.3%	12.3%	10.8%
なんともいえない・わからない	12.0%	0.8%	11.1%	11.0%	10.3%	5.1%	3.6%	3.8%	0.9%	1.4%	1.4%	4.4%
不明	0.2%	-	1.3%	4.3%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-

◆ 男性が支持やや高め 70代で最高68% 40～50代は不支持と伯仲

男性の支持がやや高めの程度で、地域的には大きな違いはみられない。

しかし、年代層ではバラツキが生じ、支持の総体で70代が最高の68%、それに30代の61%が続く。対照的に、40、50代では支持が半数を割り込み、不支持がほぼ肩を並べる。

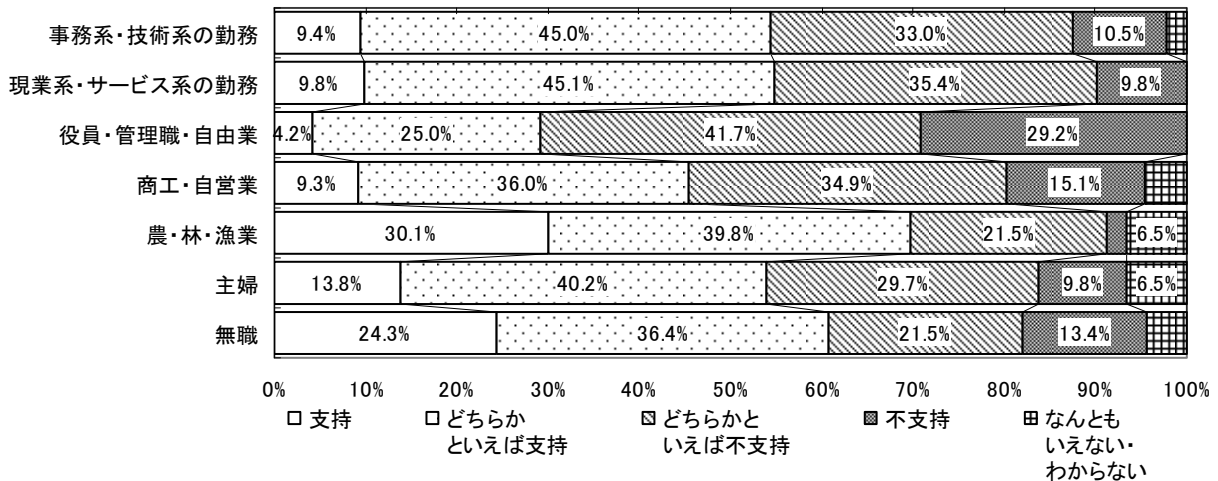
◆年代別では



◆ 農・林・漁業で支持最高の70% 管理職層や商工・自営業で振るわず

職業層で見ると、農林業の支持が約70%をクリアして最高。無職層も60%台に届く。半面、役員・管理職・自由業や商工・自営業では支持が半数を満たさない。

◆職業別では



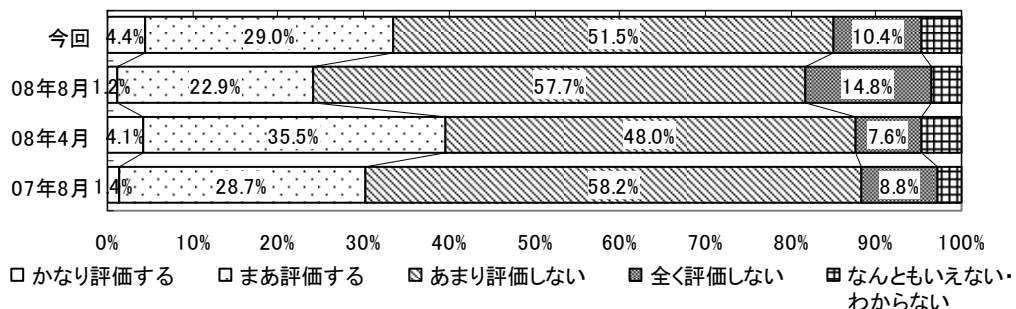
政策面の評価

景気てこ入れ・雇用の確保

「評価する」3人に1人 40代は75%否定的

「評価する」が総体で33%で、昨年4月調査よりも6ポイント余下がった。「評価しない」は62%。男女差はあまりないが、年代層では70代で「評価する」が半数に迫る。40代は「評価しないが」4人に3人の高率。50代でも高めになっている。

A 景気てこ入れ・雇用の確保について～推移



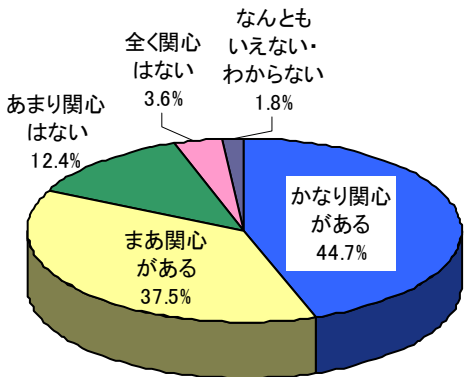
知事側近の県参事の自殺問題

真相の究明 「かなり関心」だけで45% 高齢層にこだわり強く

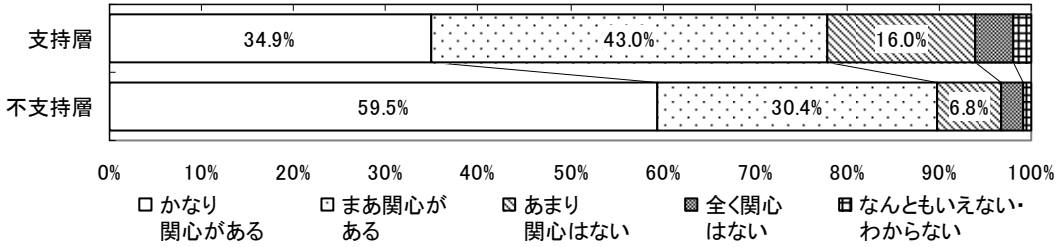
問題の真相究明に「かなり関心がある」だけで45%にのぼり、関心の総体では80%超の高水準。

職業層では役員・管理職・自由業や商工・自営業、無職層で「かなり関心」が半数を超え、受けとめの厳しさが出ている。

村井知事の支持層は、関心の総体で78%。不支持層では90%に伸び、そのうち「かなり関心」が60%を占める。



◆村井知事・県政の支持層との関連では

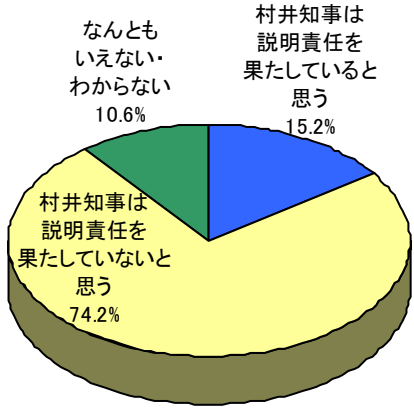


知事の説明責任 4人に3人「果たしていない」 支持層でも66%

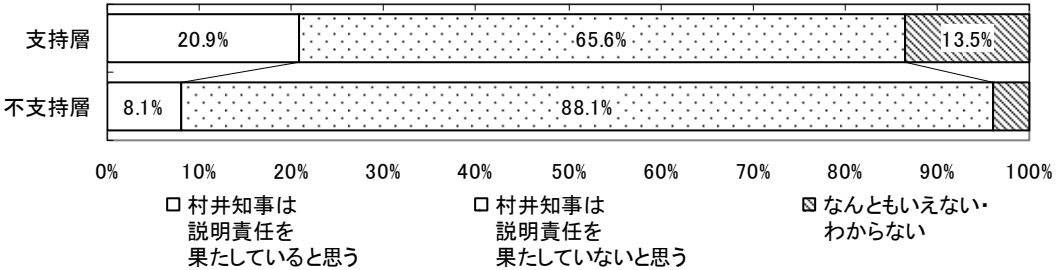
村井知事が説明責任を「果たしている」が15%にとどまり「果たしていない」が4人に3人の高率を占める。

村井知事の支持層は、説明責任を「果たしている」が21%。対照的に、不支持層では「果たしていない」が90%に迫る。

政党支持層では「果たしている」が自民27%、公明党30%と平均値を上回る。逆に「果たしていない」は民主党で80%を超え、共産党、社民党でも高い。無党派層は77%と平均値を上回る。



◆村井知事・県政の支持層との関連では

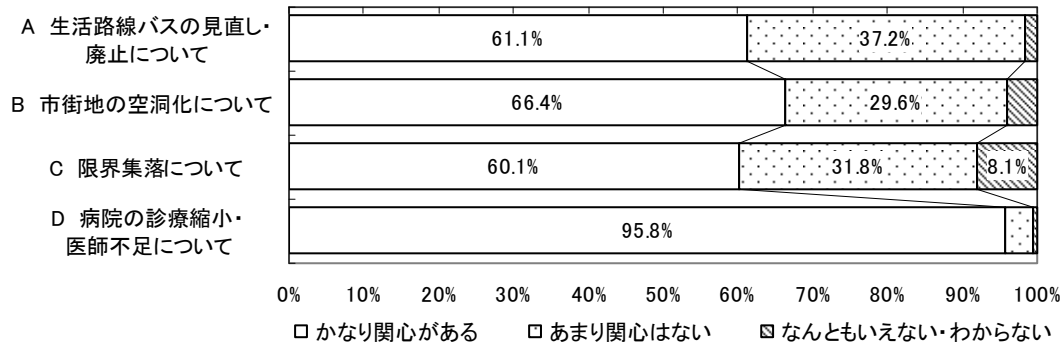


地域で直面している問題

「診療縮小」の受けとめに深刻さ

病院の診療縮小・医師不足について「かなり関心がある」だけで大半を占め、問題の深刻さを浮き彫りにした。男女、年代層、地域にほとんど受けとめの開きはみられない。

市街地の空洞化については「かなり関心がある」が66%。職業層で商工・自営業や現業・サービス系勤め人で70%を突破する。



生活路線バスの見直し・廃止にも「かなり関心がある」が60%を超え、北信と中信で高めになっている。半面、市街地、近郊住宅地、農村・中山間地の関心に違いはあまりない。

限界集落には農村・中山間地の関心度が高く、役員・管理職・自由業や農・林・漁業で70%を突破する。

村井知事・県政の継続

「今の任期限り」再び半数超

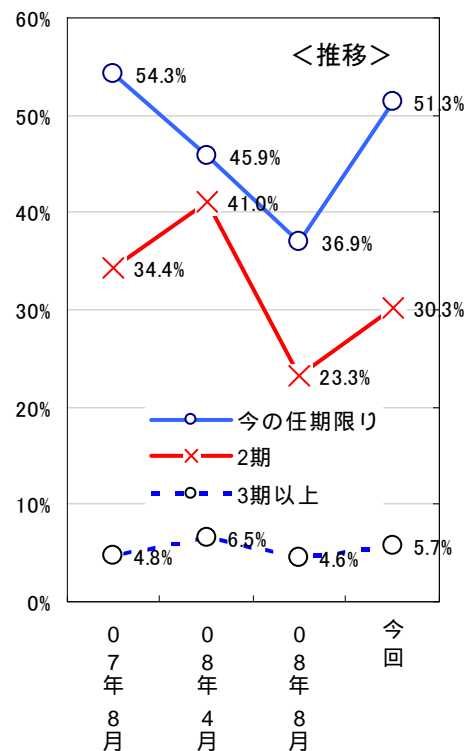
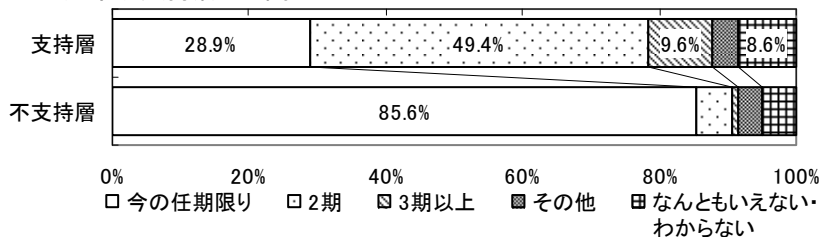
「2期」は30%

「今の任期限り」が再び増えて51%、昨年4月に比べて5ポイント余増えた（注・08年8月の郵送調査では「なんともいえない・わからない」を選択肢に入れて質問し32.8%の回答があった）。

「今期限り」は男女に違いはなく、70代を除く年代層でも大きな違いはみられない。

村井知事の支持層は「2期」「3期以上」の合計で約60%に達する。他方、不支持層では「今期限り」が86%の高水準。

◆村井県政支持層との関連では

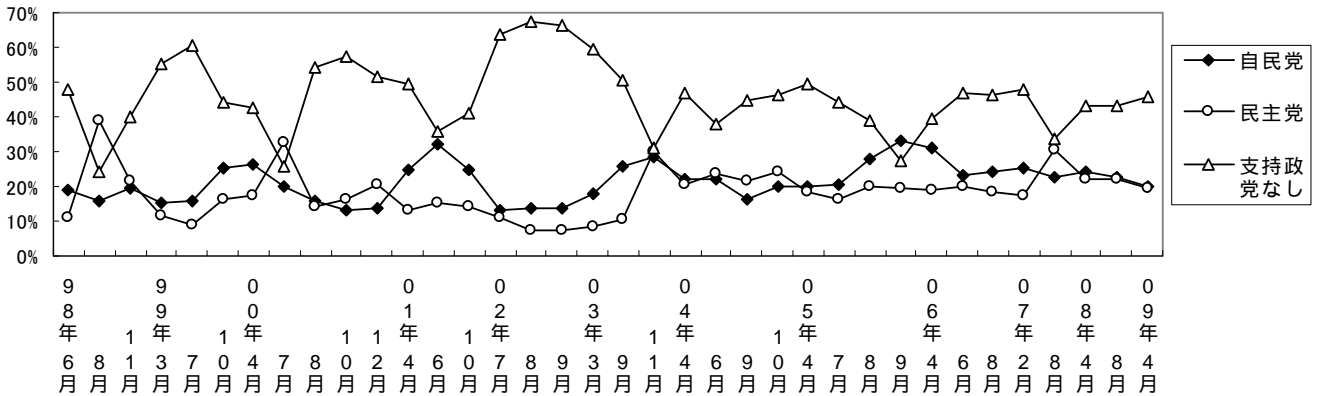


支持する政党

◆自民、民主が譲らず20% 支持なし増加46%

自民党が20.0%、民主党は19.6%で譲らず、昨年4月調査以来の1年間、政権をめぐる攻防を展開する両党の互角状況は変わらない。

3位は共産党が5%台に伸ばしてキープし、公明党、社民党が僅差で続く。支持なしはやや上向き45.8%。



	98年			99年			00年				01年			02年			
	6月	8月	11月	3月	7月	10月	4月	7月	8月	10月	12月	4月	6月	10月	7月	8月	9月
自民党	19.1%	15.6%	19.5%	15.4%	15.8%	25.3%	26.2%	19.8%	16.0%	13.3%	13.8%	24.9%	31.9%	24.5%	13.3%	13.9%	13.7%
民主党	11.0%	39.0%	21.8%	11.8%	8.9%	16.5%	17.4%	32.4%	14.3%	16.3%	20.5%	13.1%	15.3%	14.1%	11.0%	7.5%	7.4%
支持政党なし	47.9%	24.2%	39.8%	55.0%	60.6%	44.1%	42.4%	26.0%	54.1%	57.5%	51.5%	49.6%	36.0%	41.3%	63.7%	67.6%	66.2%

03年			04年				05年				06年			07年		08年		09年
3月	9月	11月	4月	6月	9月	10月	4月	7月	8月	9月	4月	6月	8月	2月	8月	4月	8月	4月
17.9%	25.8%	28.2%	21.9%	22.1%	16.1%	19.9%	19.9%	20.3%	27.8%	33.1%	30.8%	23.0%	24.1%	25.2%	22.6%	24.0%	22.6%	20.0%
8.3%	10.6%	29.9%	20.5%	23.8%	21.5%	24.4%	18.3%	16.2%	20.0%	19.7%	18.8%	20.1%	18.5%	17.5%	30.3%	22.0%	22.0%	19.6%
59.4%	50.5%	30.9%	47.1%	38.0%	44.7%	46.3%	49.4%	44.1%	38.8%	27.6%	39.5%	47.1%	46.1%	48.1%	33.5%	43.1%	43.2%	45.8%

男女差 自民は並び 民主は男性高く 支持なしは女性52%

男性で自民党20%に対して、民主党は23%とややリード。逆に、女性では自民党が20%で、民主党の17%を上回る。しかし、従来の“女性に弱い民主党”から抜け出す方向がみえる。支持政党なしが男性39% - 女性52%の落差も埋まらないはまだ。

年代層 自民が20・30・70代で優位 民主は50・60代 40代並ぶ

自民党が高年齢層で高く、70代では約30%をクリア。20、30代も自民党が優位に立つ。民主党も50代以上で高く、最高はやはり70代の25%。50、60代で優位に立つ。

40代だけは自民党、民主党が15%程度に低迷、その分支持なしが56%と、20、30代と並んで高い。